

アシステック通信

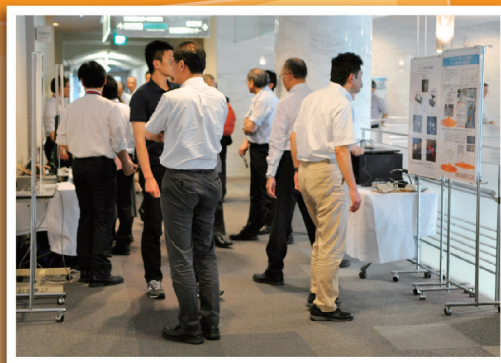
ASSISTECH

2015
73号

平成26年度 研究実践発表会

(平成27年6月5日(金)開催)

※発表内容の関連ページ P.5～P.6



目次

- P.1 福祉のまちづくり研究所の研究推進体制が変わりました
- P.2 研究ミッションについて
- P.3 私たちが取り組む研究
- P.5 多様な人々に対応したオフィスの職場環境に関する研究
～ユニバーサルデザインの概念と聴覚障害者の職場環境の改善～
- P.6 ロボットリハビリテーションプロジェクトからロボットテクノロジーミッションへ
- P.7 平成27年度 研修のご案内
- P.9 福祉用具展示ホールから
- P.10 腰痛予防対策
- P.11 アシステック掲示板
 - ・平成27年度 ひょうごユニバーサル社会づくり推進大会
 - 第23回福祉のまちづくりセミナーのご案内

THE HYOGO INSTITUTE OF ASSISTIVE TECHNOLOGY

兵庫県立福祉のまちづくり研究所



福祉のまちづくり研究所の研究推進体制が変わりました

福祉のまちづくり研究所は、設立から20年余り、情報通信機器、移動補助具、補装具及び自立支援機器の開発や、建築・道路、交通・輸送機関、情報通信の利用機会の確保に努めてきました。そして、今、次の20年に向かって歩み始めています。これからも「ニーズ・ファースト」の精神の下、これらの取り組みを真摯に続けていくことに変わりはありません。



次 長
西村 靖彦

しかし、研究機関としてさらに向上していくためには、研究ミッションを明確にした組織的な取り組みを推し進めていくことが求められています。私たちは、この研究ミッションの選定にあたり、高齢者・障害者等利用者や医療福祉職からのニーズが高く、当機関の能力・実績を十分に生かせるもの、という観点から議論を重ねました。

そして、平成27年度からの当面の間の研究ミッションを次の3つとすることにしました。

1 ロボットテクノロジー

ロボット介護機器の介護現場での普及が喫緊の課題とされており、従来からの中央病院ロボットリハビリテーションセンターとの緊密な連携を生かした研究開発を推進していきます。

2 居住支援（住宅改修）

高齢者・障害者等の地域生活移行・定着を推進していくためには、生活の本拠での居住の継続を可能とする安心・安全な暮らしができる住まいについての研究開発を最優先で進めることが求められています。

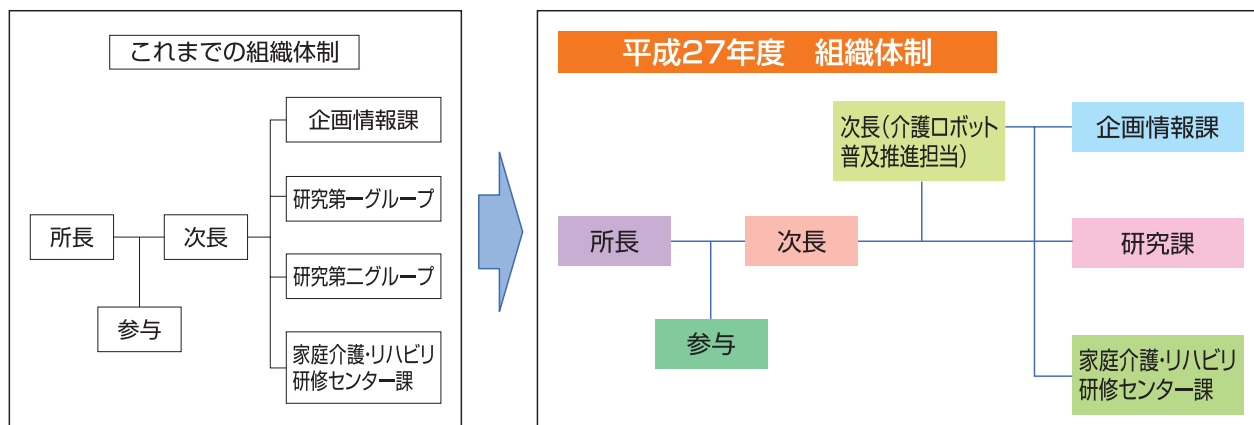
3 移動支援

高齢者・障害者等の地域生活、社会参加を確実に進めていくためには、移動の確保による生活の利便と安心の確保につながる研究開発が必要不可欠です。

なお、コミュニケーション支援についても、これらの共通基盤として欠かすことのできないものであるため、各ミッションとの関連性を考慮して、研究に取り組んでまいります。

各ミッションには、リーダーを置き、個人としてではなくチームとして研究にあたるという体制を確立して、リーダーの下、研究を柔軟かつ機動的に推進していきます。この体制をより実効あるものとするため、従来研究の専門領域毎に区分されていた研究第一グループ・第二グループというグループ制を廃止し、研究課として統合しました。個々の研究員の専門領域、得意分野を研究ミッションに生かした柔軟なチーム編成が可能となり、多様な発想に育まれた実践的な研究成果の創出につながっていくと考えています。

明確になった研究ミッション、業務推進を確実に実行する組織体制、平成27年度、新しい形で福祉のまちづくり研究所はスタートしました。



ロボットテクノロジー

ロボットテクノロジーミッションでは、身体機能が低下している障害者や高齢者のリハビリテーション訓練補助機器や支援技術などを実現するため、エンジニアが臨床スタッフと一丸となりチームアプローチによる研究開発を行っています。現場ニーズに迅速に応えるため基礎技術の開発・整備を進めており、それらを筋電義手や訓練補助機器の開発、仮想空間内での筋電義手訓練システムの研究開発などに利用しています。また、身体を動かすことが大変になった方を対象に、わずかな身体の動きで様々なリモコン機器を操作できるシステムの開発も進めています。これらの開発成果は、当事者の社会復帰、訓練期間の短縮、社会参加や自立した生活に貢献できると考えています。



ミッションリーダー
本田 雄一郎

居住支援

人が生活する上で基本となるものの一つとして「住まい」があります。今日的には障害のある人が住みよい住宅づくり、社会参加・自立生活・地域居住を可能とする福祉のまちづくり、そして、高齢社会の中でも住まい続けることのできる環境づくりと課題はたくさんあります。居住ミッションでは生活をより充実したものにするための住宅や地域を対象に、バリアフリー・ユニバーサルデザインに配慮した居住環境や地域づくりについて、実際の「福祉のまちづくり」につながる研究に取り組んでいます。



ミッションリーダー代行
相良 二郎

移動支援

人は「移動」なしでは生活が成り立ちません。しかし、「移動」はそれ自体が目的ではなく、その向こうに目的となる「活動」があります。また、スムーズな移動は、道具だけの問題ではありません。「移動」を実現し「参加」につなげるためには「当事者の心身機能」や「道具」の良し悪しだけではなく、移動する「環境」や安全かつ簡便に移動するために必要な様々な「情報」、様々な人々を受け入れる「社会」等がそれぞれに機能する必要があります。移動支援ミッションでは、主に工学的な見地から、「人」「(福祉用具などの) 道具」「(移動を行う) 環境」「(移動に必要な) 情報」に対し多面的なアプローチにより研究に取り組んでいます。



ミッションリーダー
中村 俊哉

目標：福祉のまちづくり

ロボットテクノロジー
ミッション

居住支援（住宅改修）
ミッション

移動支援
ミッション

研究プロ
ジェクト

研究プロ
ジェクト

研究プロ
ジェクト

研究プロ
ジェクト

研究プロ
ジェクト

研究プロ
ジェクト

研究プロ
ジェクト

研究プロ
ジェクト

研究プロ
ジェクト

担当ミッション 移動支援 ロボットテクノロジー

車椅子で移動される方にとって、長めの下り坂は難所の一つです。移動研究ミッションの中で、私は機能性流体を用いたブレーキの開発や上肢の運動解析に取り組む予定です。また工学的支援技術による個別ニーズ対応やその応用展開にもより力をいれていきます。



主任研究員兼研究課長
赤澤 康史

担当ミッション 移動支援 居住支援

手動車椅子を利用する方は坂道を上る時が大変で整備基準があります。下りるときも負担や安全性について課題が残っています。本年度は傾斜路面の下り走行に着目して、走行環境を明らかにし、環境の側から車椅子の機構開発に繋がる評価を予定しています。



主任研究員兼課長
(研修展示連携担当)
北川 博巳

担当ミッション 移動支援

本年度から、移動支援ミッションのリーダーを拝命いたしました。障害を有する方々の移動について主に工学的な立場からミッション一丸となって取り組んでいきます。

また、障害を有する方の直接的なニーズに基づいた個別の機器開発を実施していきます。



主査(技師)
中村 俊哉

担当ミッション 移動支援 居住支援

様々な障害をもつ人の移動支援を、情報伝達という視点で考えていきます。

本年度は、最近増えつつある無人駅を利用するときには障害のある人がどのような不自由があるのかを整理し、それらを改善するための整備指針をまとめます。



主任(研究員)
大森 清博

担当ミッション 移動支援

健康寿命増進には日常生活におけるご自身の活動量を知ることが重要となります。本ミッションでは日常生活における車椅子ユーザの移動量や心拍数などを計測・表示する機器を製作することで、車椅子ユーザの健康寿命増進を支援していきます。



研究員
原 良昭

担当ミッション 移動支援 居住支援

感覚過敏（特に聴覚過敏）を持たれる知的障害や広汎性発達障害（自閉症スペクトラム）の方が感じられる暮らしにくさに対して、公共性の高い施設ではどのような配慮が必要とされ、こういった対応が出来るかといった研究に取り組んでいます。



特別研究員
大西 俊介

担当ミッション 居住支援

本年度は、「知的障害者・発達障害者に配慮した公共空間整備に関する研究」の音環境に関する工学的な検証作業とデータ精査および、「認知症者の自立を支援する促しシステムの提案」の日常生活のリズムを維持するための促し装置の開発を担当します。



特別研究員
中園 正吾

担当ミッション ロボットテクノロジー

ロボットテクノロジーミッションのリーダーとして、中央病院ロボットリハビリテーションセンター等のスタッフと連携を取りながらニーズに根ざした研究開発（改良型筋電義手、モーションパラメータの応用技術）を行い、そこで得られた成果の社会還元を推進します。



特別研究員
本田雄一郎

担当ミッション ロボットテクノロジー

ロボットリハビリテーションをより普及させることを目的として、ロボットリハビリテーションの評価手法の開発やロボット技術を応用したリハビリ支援装置や自立生活支援装置（筋電義手の訓練装置、環境制御装置）の開発を担当します。



特別研究員
中村 豪

担当ミッション 居住支援

団塊の世代が高齢化を迎える中で、身近な生活関連の都市装置が持つ都市機能と福祉・医療の適切な関係、高齢者の生きがいと移動等を確保していくか。そのための都市・福祉行政の連携のあり方等に視点をあてて研究を進めていきたいと考えております。



専門員
難波 健

担当ミッション 移動支援 居住支援

兵庫県内の無人駅における聴覚障害者と遠隔地の駅員とのディスプレイを使った対話の有効性を確かめると共に、兵庫県福祉のまちづくり条例のチェック&アドバイス制度による整備基準評価を入力した端末の活用など、ICT（情報通信技術）の有効性を検証します。



非常勤研究員
三谷 信之

担当ミッション 移動支援

車椅子を利用する方達が、バスなどの交通機関を使って移動する際に感じるさまざまな負担を少なくすることを目標として、その時の体力的および精神的負担の定量化を行い、そこで得られた知見をもとに乗降手段や建築およびまちづくりに対する提案を目指しています。



非常勤研究員
中園 薫

担当ミッション 居住支援

兵庫県福祉のまちづくり条例には、障がい当事者が参加して行う施設整備の点検・助言の制度があります。この制度の普及を図るため、ipadなどのモバイル機器を活用して、現地で簡便に評価を行うことができるツールの研究開発を目指しています。



非常勤研究員
宮野 順子

担当ミッション ロボットテクノロジー

長年の義肢装具製作の経験を活かし、新しい筋電義手の開発や、子どもたちが実際に使う義手の製作に取り組んでいます。



義肢装具士
濱本 雄次

多様な人々に対応したオフィスの職場環境に関する研究

— ユニバーサルデザインの概念と聴覚障害者の職場環境の改善 —

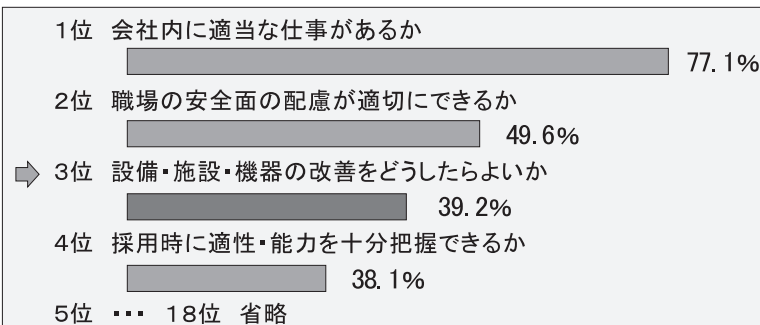
研究課 非常勤研究員 三谷 信之

近年のオフィスをめぐる環境の変化の中で、誰にでも優しく、使いやすい快適なビルにするには、聴覚障害者を含む多様な人々に対応できるよう、事前にオフィスの職場環境を設計するもしくは、既存のオフィスの職場環境を改善することが重要です。

本研究では、障害者雇用率達成企業を対象に、聴覚障害者の職場環境についてアンケート調査すると共に、聴覚障害者にも働きやすい職場環境を実験しました。

＜障害者雇用で企業が抱える不安＞

厚生労働省「平成20年障害者雇用実態調査」によりますと、設備・施設・機器の改善をどうしたらよいかに不安を抱える企業が、18ある課題の中で3位と高かったのです。



＜聴覚障害者にとっての情報バリア＞

聴覚障害者における主なバリアと言えば、オフィスの「情報」です。つまり、①職場の随時状況等耳に色々な情報が入ってこない、②指示や会議等知りたい情報が入ってこない、③始業や案内放送等ビルを取り巻く情報が聞き取れないことで、色々なバリアが生じます。

＜聴覚に障害を持つ内勤者についてアンケートの調査や職場環境の実験を実施＞

アンケート回答全体を見ますと、職場環境には「会議等の音声を文字で表示する等で支援する予定はない」等、聴覚障害者にとって職場環境的には厳しい回答を出した企業が61%と多くを占めました。また、デスク上のお知らせランプの活用、廊下の衝突防止ミラーの設置、会議の音声文字化等の実験もしました。

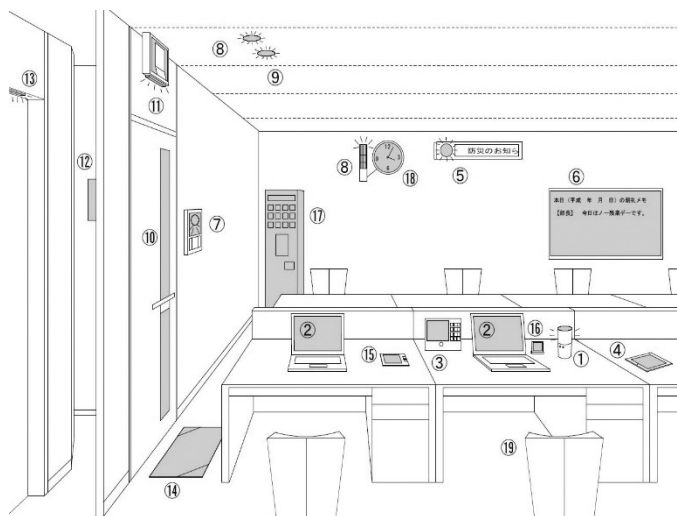
＜職場環境ガイドブックの発行＞

職場環境についてのアンケートと実験を生かして、今般「聴覚障害者にも働きやすい職場環境ガイドブック2015年版」を発行しました。

一例として、ドアに小窓⑩を付けて向こうからの様子を目で確認できるようにする等、ハード面で工夫しています。

兵庫県立福祉のまちづくり研究所のホームページに電子版を掲載しましたので、ご一読くだされば幸いです。

ガイドブックのURL➡ http://www.assistech.hwc.or.jp/kenkyu/pdf/publication/guide_book.pdf



ロボットリハビリテーションプロジェクトから ロボットテクノロジーミッションへ

研究課 特別研究員 本田雄一郎

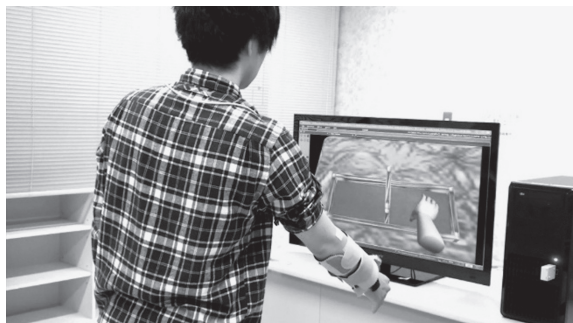
研究所の体制変化に伴い、ロボットリハビリテーションプロジェクトとして進めていた研究開発内容はロボットテクノロジーミッションで行うこととなりました。このミッションでは、身体機能が低下している障害者や高齢者を対象として、リハビリテーション訓練補助機器や支援技術などの実現を目指して研究開発を進めます。このミッションの開発成果は、当事者の社会復帰、リハビリテーション訓練期間の短縮、社会参加や自立した生活に貢献できることを想定しています。

ロボットテクノロジーミッションでは、当研究所と隣接している兵庫県立リハビリテーション中央病院（以下、リハ病院と記す。）で行われているリハビリテーションにおけるチームアプローチを研究開発においても取り入れ、エンジニアが臨床スタッフと一丸になり、現場のニーズに応えられるよう研究開発を行います。現在、現場ニーズに迅速に応えられるようにするため、ロボット・ミドルウェアを基盤とした基礎技術の開発・整備を進めています。その応用として筋電義手や訓練補助機器の開発、仮想空間内での筋電義手訓練システムの研究開発などがあります。また、体の動きや身体から発生する微弱な電気信号を計測する技術を応用し、身体を動かすことが大変になった方を対象に、わずかな身体の動きでも様々なリモコン機器を操作できるシステムの開発を進めています。

<筋電義手に関する研究開発>



装飾性の高い筋電義手



ヴァーチャル筋電義手訓練システム

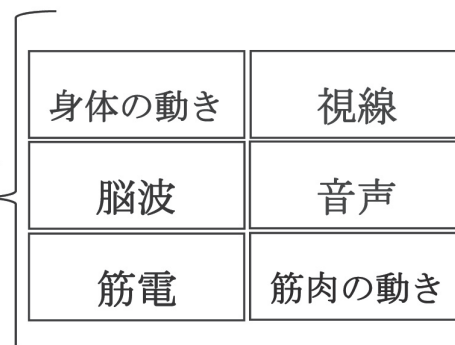
<身体の動きを計測する技術を応用した研究開発>



音声

照明ON

入力信号



複数の入力手段に対応できる環境制御システム

平成27年度 研修のご案内

当研修センター課では、高齢者や障害を有する人が住みなれた地域で生きがいを持って、その人らしく生活ができるよう支援できる人材の養成を目指し、充実した研修に向けて取り組んでいます。日程・内容など詳細についてはホームページをご確認ください。

【平成27年度 介護予防推進・介護支援に関する知識・技術向上研修】

研修 番号	研 修 名(仮)	定員	日数	研 修 日	申込締切
A	今後の介護保険制度と国の動向 ～介護予防の推進に向けて～	36名	1日	調 整 中	
B	今後の介護予防事業の展開について ～情報交換会～	36名	1日	8月19日(火)	7月29日(月)
C	制度改正における介護サービス事業所に求められる役割 ～地域で必要とされる事業所とは～	36名	1日	調 整 中	
D	高齢者に認められる精神症状について ～自立支援に向けた関わり～	36名	1日	調 整 中	
E-1	体操等を用いた介護予防事業の展開〈導入編〉	36名	1日	研修終了	
E-2	体操等を用いた介護予防事業の展開とリハ専門職の活用〈応用編〉	36名	1日	9月4日(金)	8月13日(木)
F-1	高齢者に向けた運動プログラム ～健康で元気な高齢者から虚弱高齢者まで～	36名	1日	9月29日(火)	9月7日(月)
F-2	高齢者に向けた運動プログラム ～運動プログラムの導入と進め方～	36名	1日	12月8日(火)	11月17日(火)
G	認知症の理解と実践 ～認知症を理解し、実践に役立てる～	36名	1日	7月31日(金)	受付終了
H	認知症の方とのコミュニケーション手法 ～バリデーションを用いた実践～	36名	1日	12月12日(土)	11月11日(水)
I	服薬の基礎と在宅での健康管理 〈緊急時の対応まで〉	36名	1日	調 整 中	
J-1	第1回高齢者の口腔ケアと栄養 ～高齢者の食べることを支援するための基礎知識～	36名	1日	7月28日(火)	受付終了
J-2	第2回高齢者の口腔ケアと栄養 ～おいしく食べることを支援するための口腔ケアと栄養管理の実践～	36名	1日	調 整 中	
K	排泄から考える自立支援へのアプローチ ～排泄の基礎と、排泄支援の実践について～	36名	2日	8月27日(木) 9月16日(水)	8月5日(水)
L-1	介護技術ステップアップ研修〈第1回〉	36名	1日	研修終了	
L-2	介護技術ステップアップ研修〈第2回〉	36名	1日	研修終了	
M-1	福祉用具のポイント研修 ～起居・移乗関連用具を中心に～	36名	1日	8月7日(金)	受付終了
M-2	自立支援のための福祉用具のポイント研修〈応用編〉	36名	1日	調 整 中	
N	自立を支援するポジショニング研修	30名	2日	12月2日(水) 12月3日(木)	11月11日(水)
O	高齢者の生活の捉え方と自立に向けたマネジメント研修 ～生活行為向上マネジメントを用いて～	36名	1日	研修終了	
P	介護予防・生活支援サービスに向けたケアマネジメント研修	36名	1日	調 整 中	
Q-1	第1回介護技術ステップアップ研修 ～リーダー養成編～	30名	4日	7月16日(木) 7月17日(金) 8月8日(土) 9月7日(月)	受付終了
Q-2	第2回介護技術ステップアップ研修 ～リーダー養成編～	30名	4日	11月16日(月) 11月17日(火) 12月16日(水) 1月15日(金)	10月26日(月)
R-1	高次脳機能障害研修〈基礎編〉	100名	1日	調 整 中	
R-2	高次脳機能障害研修〈専門編〉	36名	1日	調 整 中	
S-1	腰痛予防基礎研修〈管理監督職向け〉	36名	1日	9月18日(金)	8月26日(水)
S-2	腰痛予防基礎研修〈現場リーダー向け〉	30名	2日	9月18日(金) 9月19日(土)	8月26日(水)

【平成27年度 介護保険に規定する認知症介護研修事業】

研 修 名		定員	日数	研 修 日	申込締切
認知症介護実践研修(実践者研修)	第1回	60名	8日	5月19日(火)～8月28日(金)	受付終了
	第2回	60名	8日	6月23日(火)～10月5日(月)	受付終了
	第3回	60名	8日	8月25日(火)～11月30日(月)	7月28日(火)
	第4回	60名	8日	11月10日(火)～3月10日(木)	10月9日(金)
認知症介護実践研修(実践リーダー研修)	第1回	30名	11日	7月2日(木)～10月30日(金)	受付終了
	第2回	30名	11日	11月4日(水)～3月4日(金)	10月5日(月)
認知症対応型サービス事業開設者研修		30名	2日	1月12日(火)2月16日(火)	12月8日(火)
認知症対応型サービス事業管理者研修	第1回	30名	3日	研修終了	
	第2回	30名	3日	8月5日(水)～8月18日(火)	受付終了
	第3回	30名	3日	11月12日(木)～11月24日(火)	10月15日(木)
	第4回	30名	3日	1月18日(月)～1月26日(火)	12月14日(月)
小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修	第1回	30名	2日	10月14日(水)10月15日(木)	9月16日(水)
	第2回	30名	2日	2月22日(月)2月23日(火)	2月1日(月)
認知症介護実践研修(実践リーダー研修)修了者フォローアップ研修		35名	1日	調 整 中	

【平成27年度 相談支援従事者研修・サービス管理責任者等研修】

研 修 名		定員	日数	研 修 日	申込締切
相談支援従事者初任者研修		250名	5日	7月22日(水)～10月9日(金)	受付終了
相談支援従事者現任研修		60名	3日	平成28年2月頃	調 整 中
サービス管理責任者研修	介護分野	160名	5日	7月22日(水)～10月29日(木)	受付終了
	地域生活分野(身体)	20名	5日	7月22日(水)～12月3日(木)	
	地域生活分野(知的・精神)	160名	5日	7月22日(水)～12月10日(木)	
	就労分野	160名	5日	7月22日(水)～11月6日(金)	
児童発達支援管理責任者研修		160名	5日	7月22日(水)～12月16日(水)	受付終了
サービス管理責任者(就労分野)フォローアップ研修		70名	2日	平成28年3月頃	調 整 中

【平成27年度 強度行動障害支援者養成研修】

研 修 名		定員	日数	研 修 日	申込締切
強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)		120名	2日	9月25日(金)9月26日(土)	7月31日(金)
強度行動障害支援者養成研修(実践研修)		120名	2日	平成28年1月頃	調 整 中

※研修の募集案内の詳細及び申込書は、こちらのホームページからダウンロードしてください。

[<http://www.hwc.or.jp/kensyuu/>]

※研修名等、都合により変更する場合があります。詳細はホームページをご確認ください。

※調整中の研修については、確定次第ホームページに掲載しますので、随時ご確認ください。

福祉用具展示ホール・ウェルフェアテクノハウス神戸

福祉用具展示ホールでは、福祉用具や住宅改修等の相談に作業療法士等が対応し、見学者の受入れ・研修の実施などを通して、住環境改善や福祉用具を活用した介護技術の普及啓発に取り組んでいます。

また今年度も福祉用具展示機能を備える兵庫県立但馬長寿の郷・西播磨総合リハビリテーションセンター研修交流センターとの連携を図りながら、特別展示及び企画展示の予定をしていますので、皆様のご利用をお待ちしております。



福祉用具展示ホール



ウェルフェアテクノハウス神戸

お知らせ 福祉用具展示ホールをリニューアル

ー 介護ロボットゾーンを充実します ー

国の施策の動向を踏まえ、これまで介護ロボット普及モデル事業、ロボット介護推進プロジェクト等に取り組んできたところですが、今年度は県の補助を受けながら、福祉用具展示ホールをリニューアルし、介護ロボットゾーンを充実してまいります。予定は年内を目途にしていますが、今後も介護現場ニーズと企業シーズの間に立ちながら、福祉人材不足の深刻化が懸念される介護現場の一助となり、実用的に活用できる「介護ロボット」の普及推進に取り組んでまいります。今年度も皆様のご理解、ご協力よろしくお願いいたします。



研修センター課スタッフ紹介

上段左から

開発指導員 谷垣貴司 展示ホール職員 中川 徹 開発指導員 安岡 淳
作業療法士 福元正伸 研修事務員 宮崎明子 研修事務員 山口幸子
展示ホール職員 溝口米子

下段左から

展示ホール職員 秋田千加 課長 木立真由美 課長 吉田 泉
展示ホール職員 美馬麻梨子 展示ホール職員 伊藤美里
研修事務員 谷口里美



よろしくお願いします

～腰痛が無い人も腰痛予防対策を～

腰痛は日本人の8割以上が一度は経験すると言われており、一度重症化すると、何度も繰り返し、慢性的な腰痛になってしまいます。保健衛生業（看護・介護職等）における腰痛発症件数は増加傾向にあり、組織的に腰痛予防対策に取り組むことが人材の確保・ケアの質の向上のためにも重要です。

腰痛が発生する原因を2つの代表的な原因で説明します。1つ目は、腰椎の機能障害です。腰を曲げて前かがみになった姿勢で作業を続けると、通常は腰椎の中央にある髄核という組織が少し後方へズレます。それが積み重なり、継続的に負荷がかかると、髄核が後方へズレたままとなり、『ぎっくり腰』や『ヘルニア』といったアクシデントに繋がる危険性が高まります。特に、急に大きく前かがみになる・重い物を引っ張り上げる・身体をねじったまま重い物を移動させるなど、人力での人の抱え上げ作業などは急な負荷がかかり、危険性は一層高まります。

2つ目は、ストレスに伴うドーパミンやセロトニンの分泌不足などによる脳の機能障害です。心理・社会的なストレスを対処できず抱え込んでいると、快感や痛みを抑える役割を果たす脳内のドーパミンが分泌されなくなります。その結果、セロトニンの分泌も低下し、自律神経のバランスが崩れ、腰痛やうつ状態、頭痛・肩こり等の身体・精神症状が現れることがあります。

腰痛予防対策を推進するためには、職場での腰痛発生状況や原因を調査し、原因に対して低減措置を取ることが重要です。その方法には、福祉用具の利用や動作方法の検討などが含まれます。腰痛の予防には、日頃からの健康管理も重要な要素であり、十分な睡眠、禁煙、入浴による保温、ストレッチや適度な運動、バランスのとれた食事、気分転換などが有効です。



家庭介護・リハビリ研修センター課
作業療法士

福元 正伸

～腰痛予防対策における福祉機器・用具の活用と介助方法～

■ベッド上の介助



ベッド上の介助を行う際は、ベッドの高さを十分にあげましょう。

■ベッド上の移動

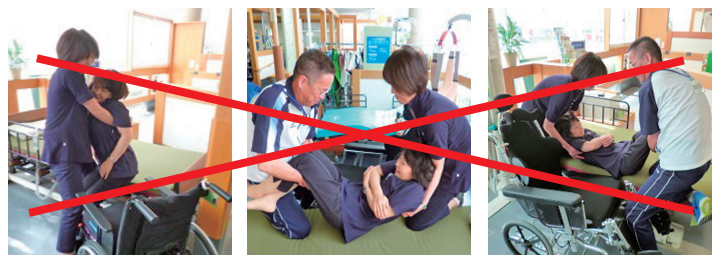


強引に介助するのではなく、スライディングシートなどを活用しましょう。

■移乗場面

一人介助

二人介助



人力での抱え上げは、介助される側・する側ともに身体的・精神的負荷が高まります。抱え上げ等の強引な介助は行わず、動作方法の検討や、トランスファーボード（図1）・リフト（図2）などの活用を検討しましょう。



図1



図2



平成27年度 ひょうごユニバーサル社会づくり推進大会

第23回福祉のまちづくりセミナー



ユニバーサル社会の実現をめざして

～全ての人誇りをもちて生きられる兵庫に!～

社会福祉法人プロップ・ステーション 理事長 竹中 ナミ 氏

1948年兵庫県神戸市生まれ。ニックネーム「ナミねえ」で親しまれている超元気の関西人。重症心身障害の長女を授かったことから、独学で障害児医療・福祉・教育を学ぶ。1991年、草の根のグループとしてプロップ・ステーションを発足、ICTを駆使してチャレンジド(障害を持つ人の可能性に着目した、新しい米語)の自立と社会参画、とりわけ就労の促進を支援する活動を続けている。

内閣官房雇用戦略対話委員、社会保障国民会議委員などを歴任し、現在関西大学経済学部客員教授などを務める。

と き 平成27年7月24日(金) 13:30～16:30(※セミナーは15:00から)

ところ 兵庫県公館(神戸市中央区下山手通4-4-1)

対 象 どなたでもご参加いただけます **参加費** 無 料

※お申込み・お問い合わせは企画情報課まで

今年度もよろしくお願い致します



参与 相良 二郎

所長 陳 隆明



〈企画情報課〉

次長(介護ロボット普及推進担当)兼企画情報課長

水口 信宏(中央)

主 事 酒井 和子(右側)

事務補助 田中亜由美(左側)

アシステック通信

第73号(平成27年7月)

[編集・発行]

社会福祉法人 兵庫県社会福祉事業団

総合リハビリテーションセンター

兵庫県立福祉のまちづくり研究所

〒651-2181 神戸市西区曙町1070

TEL 078-927-2727(代) FAX 078-925-9284

<http://www.assistech.hwc.or.jp>

編集
後記

研究部門に異動してはや3ヶ月が経ちました。様々な視点からの研究を知ることにより、「福祉」という言葉のもつ意味の広さに驚く日々です。これから研究所の一員として、福祉のまちづくりのための研究がよりスムーズに進められるようサポートしていきたいと思ひます。

アシステック通信編集委員 酒井 和子